

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成24年8月13日

【四半期会計期間】 第50期第2四半期（自平成24年4月1日至平成24年6月30日）

【会社名】 株式会社 建設技術研究所

【英訳名】 CTI Engineering Co.,Ltd.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 大島 一哉

【本店の所在の場所】 東京都中央区日本橋浜町三丁目21番1号

【電話番号】 03(3668)0451(代表)

【事務連絡者氏名】 取締役執行役員管理本部長 栗田 秀明

【最寄りの連絡場所】 東京都中央区日本橋浜町三丁目21番1号

【電話番号】 03(3668)0451(代表)

【事務連絡者氏名】 取締役執行役員管理本部長 栗田 秀明

【縦覧に供する場所】 株式会社 建設技術研究所 大阪本社
(大阪市中央区道修町一丁目6番7号)
株式会社 東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次		第49期 第2四半期 連結累計期間	第50期 第2四半期 連結累計期間	第49期
会計期間		自 平成23年1月1日 至 平成23年6月30日	自 平成24年1月1日 至 平成24年6月30日	自 平成23年1月1日 至 平成23年12月31日
売上高	(百万円)	18,654	17,011	33,646
経常利益	(百万円)	666	456	1,129
四半期(当期)純利益	(百万円)	317	207	421
四半期包括利益又は包括利益	(百万円)	383	238	507
純資産額	(百万円)	19,752	19,887	19,876
総資産額	(百万円)	37,526	39,155	30,332
1株当たり 四半期(当期)純利益金額	(円)	22.48	14.65	29.83
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額	(円)			
自己資本比率	(%)	52.4	50.5	65.2
営業活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	7,357	9,842	1,005
投資活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	2,515	7,484	683
財務活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	408	553	238
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高	(百万円)	11,157	7,966	6,163

回次		第49期 第2四半期 連結会計期間	第50期 第2四半期 連結会計期間
会計期間		自 平成23年4月1日 至 平成23年6月30日	自 平成24年4月1日 至 平成24年6月30日
1株当たり四半期純利益金額	(円)	20.31	25.38

- (注) 1. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
2. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益につきましては、潜在株式がないため該当事項はありません。
3. 当社は、四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載していません。
4. 第49期第2四半期連結累計期間の四半期包括利益の算定にあたり、「包括利益の表示に関する会計基準」(企業会計基準第25号 平成22年6月30日)を適用し、遡及処理しております。

2 【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社および当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。
また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

2 【経営上の重要な契約等】

該当事項はありません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 経営成績の分析

当社グループの属する建設コンサルタント産業を取り巻く事業環境は、平成23年度補正予算の効果等から公共投資が堅調に推移したことに加え、平成24年度の国の公共事業関係費の前年度当初予算比6.6%増額や地方の単独事業費の下げ止まりなどにより、改善されました。

このような状況下において、当社グループは、東日本大震災からの復興事業に積極的に取り組むほか、海外・マネジメント・都市・環境といった重点分野の事業展開、港湾、水道等の未参入分野への進出を強化してまいりました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の当社グループ全体の受注高は前年同四半期比34.5%増の20,115百万円（前年同四半期14,959百万円）となりました。売上高につきましては、17,011百万円（前年同四半期18,654百万円）となり、通期予想売上高の50.0%となりました。営業利益は407百万円（前年同四半期610百万円）となり、通期予想営業利益の40.8%、経常利益は456百万円（前年同四半期666百万円）と通期予想経常利益の43.5%、第2四半期純利益は207百万円（前年同四半期317百万円）となり、通期予想当期純利益の41.4%となっております。

(2) 財政状態の分析

(資産)

当第2四半期連結会計期間末における総資産は39,155百万円となり、前連結会計年度末に比べ8,822百万円の増加となりました。これは主に受託料収入等による現金及び預金の増加によるものであります。

(負債)

当第2四半期連結会計期間末における総負債は19,268百万円となり、前連結会計年度末に比べ8,811百万円の増加となりました。これは主に未成業務受入金の増加によるものであります。

(純資産)

当第2四半期連結会計期間末における純資産は19,887百万円となり、前連結会計年度末に比べ11百万円の増加となりました。これは主にその他有価証券評価差額金の増加によるものであります。

(3) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物(以下「資金」という)の残高は7,966百万円となり、前連結会計年度末と比べ1,802百万円の増加となりました。当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの増減要因は、次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果取得した資金は9,842百万円(前年同四半期連結累計期間比33.8%増)となりました。これは主に未成業務受入金の増加額9,752百万円によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は7,484百万円(前年同四半期連結累計期間比197.6%増)となりました。これは主に定期預金の預入れによる支出7,500百万円によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果使用した資金は553百万円(前年同四半期連結累計期間比35.5%増)となりました。これは主に短期借入金の借入と返済による純支出250百万円、配当金による支出225百万円によるものであります。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループの事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更および新たに生じた課題はありません。

(5) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間において、研究開発活動に要した費用の総額は、155百万円であります。なお、当第2四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	40,000,000
計	40,000,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成24年6月30日)	提出日現在発行数(株) (平成24年8月13日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	14,159,086	14,159,086	東京証券取引所市場 第一部	単元株式数 100株
計	14,159,086	14,159,086		

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成24年4月1日～ 平成24年6月30日		14,159,086		3,025		4,122

(6) 【大株主の状況】

平成24年6月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式総数 に対する所有株式 数の割合(%)
建設技術研究所従業員持株会	東京都中央区日本橋浜町3丁目21-1 (日本橋浜町Fタワー) [(株)建設技術研究所内]	1,849	13.06
日本マスタートラスト信託銀行 株式会社(信託口)	東京都港区浜松町2丁目11番3号	453	3.20
株式会社三菱東京UFJ銀行	東京都千代田区丸の内2丁目7番1号	371	2.63
三菱UFJ信託銀行株式会社 (常任代理人 日本マスタートラ スト信託銀行株式会社)	東京都千代田区丸の内1丁目4番5号 (東京都港区浜松町2丁目11番3号)	354	2.50
日本トラスティ・サービス信託 銀行株式会社(信託口)	東京都中央区晴海1丁目8-11	303	2.14
住友生命保険相互会社 (常任代理人 日本トラスティ・ サービス信託銀行株式会社)	東京都中央区築地7丁目18-24 (東京都中央区晴海1丁目8-11号)	300	2.12
日本生命保険相互会社	東京都千代田区丸の内1丁目6番6号 日本生命証券管理部内	269	1.90
第一生命保険株式会社 (常任代理人 資産管理サービス 信託銀行株式会社)	東京都千代田区有楽町1丁目13-1 (東京都中央区晴海1丁目8-12 晴海アイラ ンドトリトンスクエアオフィスタワーZ棟)	269	1.90
CBNY DFA INTL SMALL CAP VALUE PORTFOLIO (常任代理人 シティバンク銀行 株式会社)	388 GREENWICH STREET, NY, NY1 0013, USA (東京都品川区東品川2丁目3番14号)	257	1.82
大同生命保険株式会社 (常任代理人 日本トラスティ・ サービス信託銀行株式会社)	大阪府大阪市西区江戸堀1丁目2番1号 (東京都中央区晴海1丁目8番11号)	174	1.23
計		4,604	32.52

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成24年6月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 17,300		
完全議決権株式(その他)	普通株式 14,104,900	141,049	
単元未満株式	普通株式 36,886		
発行済株式総数	14,159,086		
総株主の議決権		141,049	

(注) 1 「完全議決権株式(その他)」には、証券保管振替機構名義の株式が4,100株(議決権の数 41個)含まれております。

2 「単元未満株式」には、当社所有の自己株式が 31株含まれております。

【自己株式等】

平成24年6月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
株式会社建設技術研究所	東京都中央区日本橋浜町 3 - 21 - 1	17,300		17,300	0.1
計		17,300		17,300	0.1

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（平成24年4月1日から平成24年6月30日まで）および第2四半期連結累計期間（平成24年1月1日から平成24年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】
(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年12月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成24年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,161	12,966
受取手形及び完成業務未収入金	1,817	902
有価証券	3,002	2,500
未成業務支出金	10,300	10,708
その他	750	757
貸倒引当金	27	27
流動資産合計	19,003	27,807
固定資産		
有形固定資産		
土地	4,610	4,610
その他(純額)	2,451	2,382
有形固定資産合計	7,061	6,993
無形固定資産		
	253	231
投資その他の資産		
その他	4,023	4,133
投資損失引当金	10	10
投資その他の資産合計	4,013	4,123
固定資産合計	11,328	11,347
資産合計	30,332	39,155
負債の部		
流動負債		
業務未払金	1,210	608
短期借入金	250	-
未払法人税等	168	292
未成業務受入金	5,466	15,218
賞与引当金	451	395
役員賞与引当金	25	14
業務損失引当金	111	105
その他	1,593	1,504
流動負債合計	9,277	18,140
固定負債		
退職給付引当金	685	629
資産除去債務	129	131
その他	365	367
固定負債合計	1,179	1,127
負債合計	10,456	19,268

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年12月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成24年6月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,025	3,025
資本剰余金	4,122	4,122
利益剰余金	12,540	12,521
自己株式	11	11
株主資本合計	19,677	19,658
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	92	122
その他の包括利益累計額合計	92	122
少数株主持分	105	106
純資産合計	19,876	19,887
負債純資産合計	30,332	39,155

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】
【四半期連結損益計算書】
【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年1月1日 至平成23年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年1月1日 至平成24年6月30日)
売上高	18,654	17,011
売上原価	14,368	12,904
売上総利益	4,286	4,106
販売費及び一般管理費	1 3,676	1 3,699
営業利益	610	407
営業外収益		
受取利息	10	10
受取配当金	13	11
受取家賃	21	19
その他	18	14
営業外収益合計	63	55
営業外費用		
支払利息	0	1
支払手数料	3	2
為替差損	2	1
その他	0	0
営業外費用合計	7	6
経常利益	666	456
特別損失		
固定資産処分損	1	1
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	22	-
特別損失合計	23	1
税金等調整前四半期純利益	642	455
法人税等	318	246
少数株主損益調整前四半期純利益	324	209
少数株主利益	6	2
四半期純利益	317	207

【四半期連結包括利益計算書】
 【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年1月1日 至平成23年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年1月1日 至平成24年6月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	324	209
その他の包括利益		
其他有価証券評価差額金	58	29
その他の包括利益合計	58	29
四半期包括利益	383	238
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	376	236
少数株主に係る四半期包括利益	6	2

(3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年1月1日 至平成23年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年1月1日 至平成24年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	642	455
減価償却費	226	204
のれん償却額	18	8
貸倒引当金の増減額(は減少)	0	-
退職給付引当金の増減額(は減少)	51	55
賞与引当金の増減額(は減少)	158	55
役員賞与引当金の増減額(は減少)	20	11
業務損失引当金の増減額(は減少)	30	6
受取利息及び受取配当金	23	21
支払利息	0	1
売上債権の増減額(は増加)	125	914
未成業務支出金の増減額(は増加)	1,817	408
業務未払金の増減額(は減少)	400	600
未成業務受入金の増減額(は減少)	5,447	9,752
その他	61	227
小計	7,654	9,948
利息及び配当金の受取額	23	19
利息の支払額	0	1
法人税等の支払額	319	123
営業活動によるキャッシュ・フロー	7,357	9,842
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	14	16
無形固定資産の取得による支出	42	22
投資有価証券の取得による支出	6	16
投資有価証券の売却による収入	0	-
定期預金の預入による支出	3,500	7,500
定期預金の払戻による収入	1,000	-
その他	47	70
投資活動によるキャッシュ・フロー	2,515	7,484
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入れによる収入	200	1,350
短期借入金の返済による支出	300	1,600
自己株式の取得による支出	0	0
リース債務の返済による支出	82	76
配当金の支払額	224	225
少数株主への配当金の支払額	1	1
財務活動によるキャッシュ・フロー	408	553
現金及び現金同等物に係る換算差額	1	0
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	4,432	1,802
現金及び現金同等物の期首残高	6,559	6,163
連結の範囲の変更に伴う現金及び現金同等物の増減額(は減少)	166	-
現金及び現金同等物の四半期末残高	11,157	7,966

【四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理】

	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年1月1日至平成24年6月30日)
1. 税金費用の計算	税金費用については、当連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

【追加情報】

	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年1月1日至平成24年6月30日)
	第1四半期連結会計期間の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」(企業会計基準第24号 平成21年12月4日)および「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第24号 平成21年12月4日)を適用しております。

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

前連結会計年度 (平成23年12月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成24年6月30日)
1 保証債務 当社グループ従業員の銀行からの借入に対して86百万円の債務保証を行っております。	1 保証債務 当社グループ従業員の銀行からの借入に対して73百万円の債務保証を行っております。

(四半期連結損益計算書関係)

前第2四半期連結累計期間 (自平成23年1月1日至平成23年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年1月1日至平成24年6月30日)
1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。 給料手当 1,535百万円 賞与引当金繰入額 124 役員賞与引当金繰入額 14 退職給付費用 73	1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。 給料手当 1,574百万円 賞与引当金繰入額 116 役員賞与引当金繰入額 14 退職給付費用 87

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

前第2四半期連結累計期間 (自平成23年1月1日至平成23年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年1月1日至平成24年6月30日)
1 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係 (平成23年6月30日現在) (百万円)	1 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係 (平成24年6月30日現在) (百万円)
現金及び預金勘定 9,657 有価証券勘定 5,000 預入期間が3ヶ月を超える定期預金 3,500 現金及び現金同等物 11,157	現金及び預金勘定 12,966 有価証券勘定 2,500 預入期間が3ヶ月を超える定期預金 7,500 現金及び現金同等物 7,966

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自平成23年1月1日至平成23年6月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成23年3月24日 定時株主総会	普通株式	226	16	平成22年12月31日	平成23年3月25日	利益剰余金

当第2四半期連結累計期間(自平成24年1月1日至平成24年6月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年3月27日 定時株主総会	普通株式	226	16	平成23年12月31日	平成24年3月28日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自平成23年1月1日至平成23年6月30日)および当第2四半期連結累計期間(自平成24年1月1日至平成24年6月30日)

当社グループの事業は、建設コンサルタントならびにこれらの付帯業務の単一事業であり、当該事業以外に事業の種類がなく単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年1月1日 至平成23年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年1月1日 至平成24年6月30日)
1株当たり四半期純利益金額	22.48円	14.65円
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(百万円)	317	207
普通株主に帰属しない金額(百万円)		
普通株式に係る四半期純利益金額(百万円)	317	207
普通株式の期中平均株式数(千株)	14,142	14,141

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成24年 8月13日

株式会社建設技術研究所

取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 古 杉 裕 亮 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 鈴 木 達 也 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社建設技術研究所の平成24年1月1日から平成24年12月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間(平成24年4月1日から平成24年6月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(平成24年1月1日から平成24年6月30日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社建設技術研究所及び連結子会社の平成24年6月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。